

SCHEDULE

10月6日(金)

18:30 野外上映『ブリング・ミンヨー・バック!』

2022年 監督:森脇由二

10月7日(土)

17:00 トークセッション『つながる東北』

【登壇者】 榎桁一則 (みやこ映画生活協同組合常務理事、一般社団法人コミュニティシネマセンター理事)
立木祥一郎 (合同会社tecoLLC.代表)
相澤久美 (NPO法人みちのくトレイルクラブ 常務理事兼事務局長)

【司会】 小川直人 (せんだいメディアアテーク学芸員)

18:00 舞台挨拶

【登壇者】 小森はるか (映画作家)
アサダワタル (アーティスト、文筆家)

18:30 野外上映『ラジオ下神白』

2023年 監督:小森はるか

交流会 ※上映会終了後

10月8日(日)

17:00 トークセッション『トホクからグローバルを見つける』

【登壇者】 藤岡朝子 (認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭理事)
山川 渉 (山形市企画調整部文化創造都市課 課長補佐)
東あすか (なみえコミュニティシネマ実行委員会委員長)
吉野 碧 (浪江町役場企画財政課 なみえプロモーション課 浪江町地域おこし協力隊)

【司会】 経済産業省職員

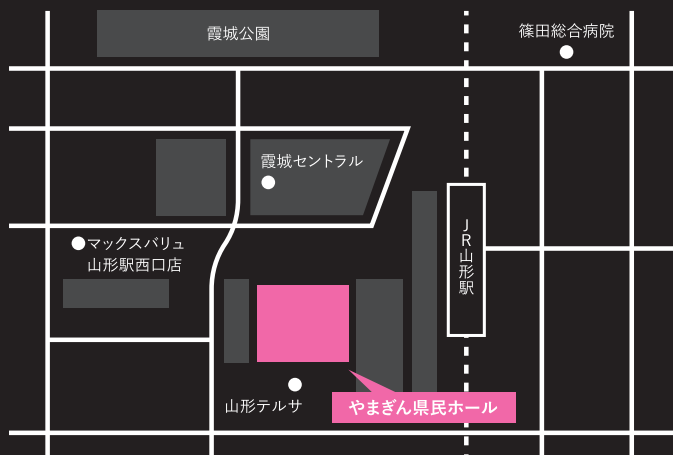
18:30 野外上映『映画砦の仲間たち』

2022年 監督:キム・ホプキンス

10月9日(月)

18:30 野外上映『雪の肘折温泉』『肘折温泉と宮さま』
山形市広報フィルム

MAP



やまぎん県民ホール イベント広場(山形駅西口徒歩1分)

※雨天時はホール内での開催を予定

主催 経済産業省
共催 認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭
山形県総合文化芸術館 指定管理者 みんなぐるやまがた山形県
協力 一般社団法人コミュニティシネマセンター

詳細は、山形国際ドキュメンタリー映画祭ホームページ(<https://www.yidff.jp/>)
または映画祭公式カタログをご参考ください。

Enchanting Tohoku through
Open-air Cinema!

10.6
FRI
9
MON

野外スクリーンで 東北を魅る

「ハマカル」プロジェクト in 山形

山形国際ドキュメンタリー
映画祭 2023

会場 やまぎん県民ホール

(山形県総合文化芸術館) イベント広場

【入場無料】全席自由席(事前登録なし・先着順)

※折りたたみ椅子、レジャーシートなどの持ち込み可

SCHEDULE

10月6日(金)

18:30 野外上映『プリング・ミンヨー・バック!』
2022年 監督:森脇由二 83分



失われた音楽“民謡”を「民の歌」としてよみがえらせるため、クンビア、ラテン、アフロ、レゲエなどさまざまなダンス・ミュージックとの融合を試みるバンド「民謡クルセイダーズ」福生を拠点にするバンドが海外ライブに挑むまでの軌跡を追ったドキュメンタリー。

10月7日(土)

17:00 トークセッション『つながる東北』

【登壇者】 榎桁一則 (みやこ映画生活協同組合常務理事、一般社団法人コミュニティシネマセンター理事)
立木祥一郎 (合同会社tecoLLC.代表)
相澤久美 (NPO法人みちのくトレイルクラブ 常務理事兼事務局長)
【司会】 小川直人 (せんだいメディアテーク学芸員)

18:00 舞台挨拶

【登壇者】 小森はるか (映画作家)
アサダワタル (アーティスト、文筆家)

18:30 野外上映『ラジオ下神白』
2023年 監督:小森はるか 70分

交流会 ※上映会終了後



福島第一原子力発電所の事故に見舞われた浪江、双葉、大熊、富岡から避難してきた人々が暮らす復興公営住宅 下神白(しもかじろ)団地。別々の土地から集まり、高齢者の多いこの団地で、「ラジオ番組風」に思い出の音楽について語らうCDをつくって配ったり、さらには歌い手のリズムにあわせて演奏する「伴奏型支援バンド」を結成するに到る、時代もコロナ禍も越えて音楽が取り結ぶ、一風変わった被災地支援活動の記録。

10月8日(日)

17:00 トークセッション『トーホクからグローバルを見つける』

映画の魅力は、作品や物語の内側だけに完結するものではありません。他者と出会い、社会の中の関係を生み出し、時として国境を越えていくような強い力が映画にはあります。山形国際ドキュメンタリー映画祭をモデルとして、地域の中にある映画が広がりを持つための課題について話し合います。

【登壇者】 藤岡朝子 (認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭理事)
山川 渉 (山形市企画調整部文化創造都市課 課長補佐)
東あすか (なみえコミュニティシネマ実行委員会委員長)
吉野 碧 (浪江町役場企画財政課 なみえプロモーション課 浪江町地域おこし協力隊)
【司会】 経済産業省職員

18:30 野外上映『映画岩の仲間たち』
2022年 監督:キム・ホプキンス 94分



2009年、世界で初めてユネスコにより創造都市(映画分野)の認定を受けたイギリス北部の工業都市ブラッドフォード(山形市は2017年に加盟認定)。1932年に結成されたブラッドフォード・ムービー・メイカーズは、自主制作・自主上映の盛んなこの町で最も古いアマチュア映画制作サークルのひとつで、毎週月曜日に、皆が集まり、紅茶を片手にして映画談話に花を咲かせる。だが、高齢化により会員数は減少し、自分たちの「岩」を維持することも財政的に難しい。そうした状況のなかでパンデミックが襲いかかる……。夢と互いの絆に必死にしがみつくと人々の姿を静かに、ユーモアを交えながら描いた本作は、シェフィールド国際ドキュメンタリー映画祭2022で観客賞を受賞した。

10月9日(月)

18:30 野外上映

『雪の肘折温泉』1976年 9分
『肘折温泉と宮さま』製作年不明/11分
「あけてびっくり……やまがた玉手箱」(山形市広報フィルム2作品)約40分



肘折温泉の魅力や、春夏秋冬ごとに紹介する目的で制作された観光PR映像。1975年頃、村営湯の台スキー場がオープンして活気に満ちた時代。その一方で、地蔵倉や小松淵の雪景色、温泉街を行き交う人々の表情の中に、古き良き肘折温泉の冬風情を見ることができる。

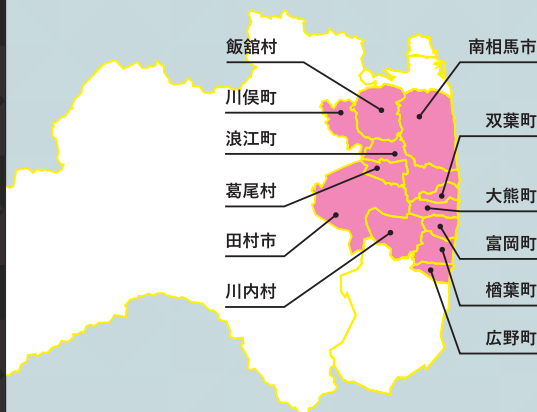


大正天皇の第三皇子であった高松宮宣仁親王は、1958年に初めて肘折を訪ねた際の記録映像。茅葺屋根の木造旅館の立ち並ぶ勝景は、山間のユートピア。フルカラーフィルムで撮影された色彩鮮やかな自然の色からは、風の音や水のせせらぎ、人々の喧噪までが聞こえてくる。

WHAT IS "HAMACUL"

「ハマカル」とは?

経済産業省では、東京電力福島第一原子力発電所事故によって避難対象地域となった12市町村を対象に、これまで企業誘致やなりわい再建など様々な復興支援を行ってきました。このような取組に加え、映画、演劇、音楽など、人々の心を潤す力を持つ芸術文化を通じて、新たに魅力あるまちづくりの一助になるよう、本年6月に、福島芸術文化推進室を立ち上げ、様々な取組を進めています。「ハマカル」は、この芸術文化の取組の総称で、浜通りを、文化(culture)で耕す(cultivate)ことを意味しています。



取組内容

YIDFFでの野外スクリーン企画や東京国際映画祭との連携、福島県12市町村の地元の皆様向けの映画上映イベントなど、映画を通じて地域の魅力を発見していく取組に加え、以下のような取組を行っています。

ハマカルアートプロジェクト

福島県12市町村芸術家の滞在を通じて、地域住民との交流や芸術文化における地域の魅力の掘り起こしを行うアーティスト・イン・レジデンス事業を支援します。

福島12市町村 学生アート制作プロジェクト

若者たちが集う流れを作っていくことを目指して、福島県12市町村を中心に作品制作を行う学生を支援します。

そのほか、演劇の祭典との連携、イベントやコンテストなどを通じて音楽の力で浜通り地域を盛り上げる取組、地域の方との対話や専門家との意見交換などを通じて、芸術の力を活用した魅力あるまちづくりを推進していきます。

お問い合わせ

大臣官房福島復興推進グループ 福島芸術文化推進室
メール:exl-s-fukushima-bunka@meti.go.jp



ハマカル
アートプロジェクトHP



学生アート制作
プロジェクトHP



昨年実施した福島浜通りシネマプロジェクトの様子